

明治から守り受け継いできた 計器製造技術の粋 精確無比な「基準温度計」

東亜計器製作所

東亜計器製作所（大田区南雪谷、横山守二社長、03・3720・5141）は、明治37年の創業当時より、ガラス温度計・ガラス比重計・基準温度計・体温計・基準比重計などの「計る『基準』」をつくっている計器製造の老舗である。

同社の主力製品は、温度の基準となる精密な温度計＝「基準温度計」である。この「基準温度計」に基づいて一般的な温度計をつくるのが計量法で定められており、デジタル表示の温度計なども全て「基準温度計」の表示を基に調整されている。日本国内においては、同社が「基準温度計」のシェアほとんど全てを占めている。

また、マイナス100℃から650℃まで計れる温度計や99℃から101℃の僅か2℃の間を精密に計る温度計、さらには曲がった温度計など用途を特化した温度計を各種製造しており、これだけ特殊な製品は、「ハンドメイド」でしかつくることができない。

例えば、「基準温度計」は、まず容器のガラスを鍛錬するところか



横山守二社長

ら始め、外気温などの環境変化でも内部の水銀メモリには影響が出ないような、誤差を極力抑えた商品として完成するまで6カ月かかる。独立行政法人産業技術総合研究所から取得した誤差 0.05℃以内であるという基準器検査成績書は、その精確さの証明である。

同社には、温度計などの製造に長年携わり、現在も創業当時の技術をそのまま守り続けているベテランの職人陣だけでなく、社内にて育成してきた若手技術者も揃っており、技術の継承を大切にしている。こうした人材の充実によって、長年ご愛顧いただいているお客様のご要望やメンテナンスにお応えする体制が整い、お客様のニーズに合わせた製品とサービスを随時お届けすることができます。

詳細、ご質問、ご相談はお気軽にお問い合わせください。
(www.toakeiki.jp)



温度計製造中